

災害と厄災の記憶を伝えるインタープリテーション

西村 仁志（広島修道大学人間環境学部）

キーワード：災害、厄災、公害、負の記憶

1. はじめに

発表者はこれまで自然環境のなかでのインタープリテーション活動とインタープリター養成に関わってきた。その一方で地震や津波、豪雨等の自然災害の現場、公害による健康や人権の被害に苦しんだ地域、戦争やテロにかかわる現場や資料館等の訪問を通じ、人間にとっての負の記憶ともいえる災害や厄災を取り扱うインタープリテーションの重要性に気づかされてきた。そしてこのような関心から「公害教育」を取り上げ、今日における公害教育の意義や役割、またとりあげるべき内容や実践手法について検討しようとしている。そのような中で「災害と厄災の記憶を伝える：教育学は何ができるのか」¹などの文献に出会うことになる。

2. 「災害」と「厄災」

同書の編著者である山名淳は「自然現象」と「それによる営造物や人間に対する損失の結果」の区別、また「過去の災害を知り、被害状況からの復興を目指し、そして将来的に生じるかもしれない災害に備える」という防災・減災教育の重要性についても視野にとらえつつ、そうした背後に「人間の限界と無力さ、受苦と向き合う人間の在り方や人々の関係性を問い直すという課題」、「かけがえない人々の死をどのように受け止めるか」、「被災の体験をもたない私に共感可能なのか」、そして「私はなぜこのような困難な時代を生きているのか」、「そもそも<生きる>とは何か」といった問いを生じるように、人間の実存ともかかわるような問いに向き合わざるをえないと指摘している。そこで山名は自然災害だけではなく「個人の生命や生活を脅かしかねないほど社会の基盤を動揺させるようなさまざまな出来事」として、戦争や迫害、巨大事故、環境汚染、また金融破綻などの社会システムの危機（カタストロフィー）をも議論の対象としている²。

3. Manzanar National Historic Site（米国立公園局）

Manzanar National Historic Site（マンザナル国立史跡）はかつて「Manzanar War Relocation Center（マンザナル戦時転住所）」と称された第2次大戦中に在米日本人および日系アメリカ人が収容された10箇所のInternment Camp（強制収容所）のうちの一つで、カリフォルニア州シエラネバダ山脈の東麓、LonePine市近郊の荒野のなかにある。最大時には1万人を超える人々が鉄条網に囲まれたバラックの建物に強制収容され、不自由な生活を余儀なくされた。収容者に対するアメリカ合衆国への忠誠心調査、そして収容所から欧州戦の最前線に送られた日系人部隊の戦い、そして解放後も日系人たちは生活再建にむけて多くの苦難を歩むこととなる。

国として公式に過ちを認めるに至るのは戦後37年もの年月が経過してからで、1983年に出された報告書では「軍事的必要性ではなく、人種差別に基づいた不当なもの」とし、1999年までかかって収容者とその子孫に対する賠償金が支払われた。2006年には連邦議会上下

院にてこれらの収容所をNational Historic Site（国立史跡）に指定する法案が可決されたのである。

Manzanar National Historic Siteのビジターセンターは19世紀からの日系移民の歴史、人種差別と迫害、開戦時の強制収容、収容所のなかでの暮らしの様子などが当時の写真を用いた展示によって解説し、また22分間のビデオプログラムの上映を行っている。屋外ではパークレンジャーによるインタープリテーションプログラムも行われているが、再現されたバラックの建物、収容者が作った日本庭園、かつて兵士が銃口を内側にむけていた監視塔（再現）などをセルフガイドにより見学することもできる³。



図1 Manzanar National Historic Siteのエントランス（2006.8. 本人撮影）

4. 負の記憶を伝える「意図」とは

米国立公園局は「優れた業績から内輪の恥まで、国家としての成長のあらゆる側面を浮き彫りにする地域や場所」を指定、管理している。負の記憶を後世に伝え、悼みと祈りの場とするとともに、そこにはかつて排斥、差別していた人々をもアメリカ人という一つのアイデンティティに結びつけようとする意図もうかがえる。発表では他の事例も紹介しつつ、こうしたインタープリテーションのあり方について考えたい。

参考文献

¹ 山名淳・矢野智司『災害と厄災の記憶を伝える：教育学は何ができるのか』勁草書房、東京、2017

² 同書,p.3

³ Manzanar National Historic Site 公式ウェブサイト
<http://www.nps.gov/manz>

⁴ ボーマー「公園はすべての米国人を結ぶ特別な場所」(Ejournal USA, 第13巻第7号「国家遺産としての国立公園=National parks, national legacy」)米国内務省国際情報プログラム局, 2008年, p. 35